

あんこのきずな

佐々木 高翔

ほくのだいすきなおやつ、あんこだんご。このあんこだんごをいつもかっつけてくれるひとがいる。すぐちかくにすんでいる、ほくのおじいちゃんだ。いつもほくは、じいじとよぶけれど、まえに

「ほんとうはじいちゃんてよんでほしいな。」

といていたのを、ほくはこっそりきいていた。だからここではじいちゃんと言ふ。

じいちゃんは、むかしはからだがおおきくてちからもつよくて、うんどうもとくいだったそうだ。ほくがあかちゃんるときも、おかあさんがごはんをつくったり、いそがしいときに、ほくをずつとだっこしてうたをうたってくれていたみたいだ。じてんしゃでさんぽにつれていってくれたこともある。でもさいきん、としをとったしびょうきもして、まえよりちからがなくなってしまうた。ほくはおおきくなってきたのに、じいちゃんはいさくなっている気がする。

だけど、こころはまだまだおおきい。ほくがしっぱいをしたり、かなしいきもちになったりしたときにはいつも、やさしくしずかなこえでなぐさめてくれる。そして、ほくが

だいすきなものをわかってきていて、いつもあんこだんごをよいしてくる。それだけじゃない。ぼくがだいすきなこんちゅうやきょうりゅう、むかしのできごとやがいこくのこと、なんでもしっていて、なにをきいてもすぐにおしえてくれる。あたまのなかにたくさんおはなしがつまっていて、ぼくよりずっとずっとすごい。

でも、ぼくとかわらないところもある。それは、あんこがだいすきということだ。じいちゃん、だんごだけでなく、もちもおはぎもだいすきだ。じいちゃんのいえにいけば、おしやうがつでもないのであんこもちがたべられる。たべたこともないあんこのおかしをたべさせてくれたりもする。ぼくがよろこんでたべるから、うれしくていろいろなあんこのおかしをさがしてくる、とおかあさんはいつていた。ぼくはともうれしかった。ぼくはまだ、ひとりでかいものをしたり、おいしいあんこのおかしをみつけることはできないけど、おとなになったらおいしいあんこのおかしをたくさんたべさせたい。だから、それまでげんきで、いろいろなおはなしをきかせてほしいな。そしていっしょにたくさんあんこをたべたいな。

ぼくのだいすきなおやつ、あんこだんご。それよりもっともっとだいすきなじいちゃんが、いつもそばにいてくれてうれしいよ。ありがとう。